

平成24年度 杉並区立杉森中学校 学校評価報告書

校長 大橋 亮 介

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ESCの実施 言語活動の充実 食育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 英語科を中心として、円滑な企画運営がなされた。今年度、参加希望者も多く、英語に対する参加者の意識および取り組み姿勢が、学校での英語授業により影響をもたらしている。 朝読書の全校体制での取り組みが定着し、落ち着いた学習環境整備につながった。年間指導計画の中に図書関連を明記し、教科との関連を意識付けた。また、学校司書との連携により図書室運営や授業での活用、区立図書館との連携などにより、貸出数の増加が見られた。しかし、読み聞かせや書評などが実施できなかった。 各学年、養護教諭・栄養士・関係機関の外部講師などにより、各学年の系統的指導が行われ、生徒自身の健康・食習慣について考えさせることができた。 学校保健委員会を開催し、校医・保護者等、本校生徒の健康管理について共通理解が図られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続していくが、次年度は英語科教員の大幅な異動が見込まれ、企画運営に関する引き継ぎを確実にしておく必要がある。 朝読書が落ち着いた学習環境へとつながっている状況を踏まえ、継続していく。各教科と図書室との連携をより深め、図書室のさらなる効果的な活用を図る。また、読み聞かせや書評などを計画的に実施し、言葉の教育を推進する 学年ごとに実施した内容を、次年度に引き継ぎながら、さらに充実した内容に改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせが中学校の特色というのは、違和感がある。 言葉の教育に関しては、教員の共通理解ができていないと推進できない。 杉並区「言葉の教育」において、古典より、コミュニケーション能力の拡充が必要。 理科好きが多い学校イコールコミュニケーションの多い学校という統計結果が出ている。 コミュニケーション能力を高めるためには、朝読書後に、書評・感想文を発表し、表現力を高めることが重要である。 自己の健康管理だけでなく、食育と体育の関連が深いので、体力向上の結果などを示し、体力向上と食育を関連させて伸ばす。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> イングリッシュサマーキャンプは、今後も英語科教員を中心に全校体制で取り組む。 朝の読書活動を活用し、書評・感想文を発表し、表現力、コミュニケーション能力高める。 食と運動、健康を連携させた指導計画を策定し、生徒の発達段階に応じた食育を推進する。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着 授業規律の徹底 補充学習教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の徹底に関しては、学力調査の結果から、都では上位で、区では平均の数値となっている。教育調査では保護者の「学習指導」に関する評価が低い。また、1学級2展開の少人数指導により、きめ細かい学習指導を実施できた。教育調査では、「授業で分かることやできることが少しずつ増えている」について、生徒の肯定率が8割以上となった。 昨年に引き続き、生活指導部を中心として、全校共通理解の下、授業規律の徹底に臨んだ。学年・教科によるチャイム着席・授業規律のばらつきに改善が見られた。 学校支援本部の全面的な協力を得て、補充学習教室を実施できた。授業理解の意図を明確にし、教員と外部指導員との共通認識の下、実施していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るために、生徒一人一人の学習状況に応じた個別対応を完全に行うことは難しい。しかしながら、補充学習教室の活用と併せ、授業時間内の各教科の工夫・改善が必要である。次年度は、少人数指導が、数・理・英の3教科となり、さらに個に応じた授業展開を推進する。 授業規律の徹底を維持するために、全教員による共通理解・共通実践を続けていく。 教員と外部指導員との打ち合わせを綿密に行い、共通理解の下、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着に重点を置いてもらいたい。学力が高い生徒は、ある程度、塾や自分でできるが、そうでない生徒は補充などで学力向上につなげ、調査などで結果に表れるようにしてもらいたい。 区教育調査の学習指導の結果では、2年の評価が低いが学年によって差がある。 補充学習について、外部指導員から取り組み状況を連絡し合っているか。 補充教室を実施する姿勢だけではなく、成果を上げることが大切。 教材選定が必要。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究指定校を受けることで、各教科における授業改善を推進し、基礎・基本の定着を図る。 区の学習調査を全学年で実施し、その結果から生徒の学習に関する状況分析を行い、授業改善を図る。 教育調査の分析結果から、生徒・教師との信頼関係が重要であり、その関係を構築するための指導改善を図る。 学校支援本部と連携し、放課後の数学・英語の補習教室を実施し、授業内容の理解度を高め、基礎・基本の定着を図る。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> いじめをさせない・許さない環境づくり 防災・安全教育の推進 教育相談委員会を中心とした個別指導・支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学期1回のいじめ調査だけでなく、普段から生徒の様子に細かく目配りをし、いじめ等の早期発見と的確な対応をした。 計画的に避難訓練を実施することで、生徒が短時間に避難する習慣が身に付いた。引き取り訓練や防災教育の講演会など開催し、防災に対する意識付けができた。 定期的な校内教育相談委員会が定着し、SCとの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。特に、SCと不登校生徒・保護者との面談を推進した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎の指導体制の構築と、全体での情報共有の徹底を図っていく。また、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進する 今後も計画的に継続していく。 養護教諭・特別支援コーディネーター・SCの連携から、各教員への教育相談活動の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳年間計画を見ているが、学校の教育と道徳とかみ合っていない。SCも大切だが、道徳の時間でいじめの問題を扱うなど出来ることがある。 いじめは子どもの心の中で起こる。心の指導が最優先である。情報共有は教師の側の問題あり。子どもの心への働き掛けは、道徳が大切である。 教員の荒い言葉が子どもを傷つけることもある。配慮が必要である。 本校ではいじめの情報を耳にしていない。ニュースの話を知ると、「そういう学校もある」と、身近な話としてとらえられない。 教員の言動は、生徒への影響力も大きいので、改善すべきことは改善していかなければならない。 防災訓練ではレスキュー隊の参加だけでなく他の中学生がどう動くか、改善を積極的に行ってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習を重視したキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、発達段階に応じた進路指導を実施した。1年生では、幅広い事業所への職場訪問、第2学年では、体験場所探しからの職場体験活動が、キャリア教育としての成果を挙げた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加などから社会貢献とキャリア教育を関連付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差せるとよい。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめをしない、させない環境づくりをするために、道徳の授業やあらゆる学習活動で、人権意識を高める指導・助言を積極的に実践する。また、情報モラルに関する指導も推進する。 防災教育・安全教育を推進するために、様々な状況での避難訓練、安全教育の実演講習会を開催し、危機管理能力を高める。また、地域防災訓練等にレスキュー隊を参加させる。 学校運営協議会と連携しながら、地元事業所への職場体験を実施、地域との関わりから自分たちができる社会貢献を考えさせていく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
道徳・総合的な学習の時間・特別活動	・自他の生命を大切にす る実践的態度の育成	・昨年度の反省から、学校、学年の実情 に即したテーマを臨機応変に策定し、 道徳を実践した。「いのちの教育月間 」において、管理職講話を行い、それ に基づく各学年の道徳授業の実践によ り、生徒自身に自他の生命について考 えさせる機会を設けた。生徒間のトラ ブルもほとんどなく、自他を大切にし 、お互いを認め合う心が徐々に身に付 いてきた。	B	・今後も、人権教育を推進し、自他の生命を 大切にすることを軸に、あらゆる教育活動 で指導・実践していく。 ・道徳の時間を確保するために水曜1校時に 実施し、道徳教育のより一層の充実を図る。	・臨機応変も分かるが、計画的指導が弱い。道徳 の時間の計画性、計画的発展により深化・統合 するので、計画が重要である。 ・全体計画と年間指導計画を大川委員を中心に指 摘され、完成させた。ただ完成させるだけで なく、どこがどう変わったか、教員の中で話し合 うことが重要である。 ・広報でレスキューを取り上げた際、「災害時に 地域で役立ちたいと思った。」という答えがあ った。いざという時、そういう気持ちを学校全 体で高められるようにしてほしい。
	・「生きる」というテー マの下に、宿泊体験学 習、職場体験学習をと おして、道徳性を高め る	・宿泊体験学習、職場体験学習ではそれ ぞれのねらいに則して実施できた。「 自他を尊重し、お互い様」という心構 えが育ちつつある。	B	・道徳性の涵養は、宿泊体験学習、職場体験 学習のみならず、あらゆる教育活動におい てその達成を画策していく。 ・1年生ではフレンドシップスクールを実施 し、協調性やコミュニケーション能力を高 める	・「生きる」でなく、「生き方」という語句を用 いたらどうか。区の重点施策でも用いられて いる。
	・生徒会活動におけるボ ランティア活動の充実	・生徒会を中心として、地域行事への積 極的なボランティア参加の増加を達成 できた。その活動に対して、青少年表 彰を受けた。また、服のリユースを実 施し、社会貢献に関わった。	A	・生徒会主導による活動が定着している。次 年度、自治力の涵養をめざし、計画的指導 を推進する。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指導計画を、より生徒の実態に合った内容とし、水曜1校時に実施することで道徳の時間を確保し、道徳的实践を高める工夫改善を行う。 ・「生きる」という大きなとらえ方で、様々な体験活動を通して、個・集団として生き方を学ぶ機会を増やす。 ・生徒会活動を軸に、地域行事への積極的なボランティア参加や自分たちができる社会貢献活動を推進し、自治力を高める。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の全面協力の下、具体的な改善点への取り組みが実施され、学校経営目標の達成に成果があった。学校支援本部との連絡会を開催し、連携を密にし支援の効果を挙げた。PTA運営委員会を学期2回開催し、情報の共有化とともに共通理解を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、各会との連携を密にしていく。また、学校支援本部とPTAとの協力体制を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活外部指導員費の管理が支援本部が中心となる。PTAとの連携が必要。 支援本部とPTAの関わりはどうか。ハッピーハンズはPTA、支援本部と共通する。3年で卒業したら、支援本部に残ってほしい。互いの意識があるといい。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校を地域に広く公開し、情報発信の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 休業日における学校行事と学校公開に加え、防災講演会への参加呼びかけを行い、地域への公開に努めた。 学校HPの内容充実および更新回数の改善および各種たよりの内容充実を図った。また、地域活動には必ず管理職・教員が出席し、学校の情報の的確な発信を行った。今年度、学区外からの入学希望が95名に上る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も、休業日に限らず学校行事と学校公開を継続し、地域の理解・協力を継続する。 学校HPの内容充実および更新回数さらなる増加と、各種たよりの内容充実を今後も続ける。地域活動への教員の参加を増やし、学校の情報の的確な発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内部評価では、先生方の評価が低い。保護者に理解されているか。 教育目標は保護者会では伝えてもらっている。学校要覧は配布されていない。
	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回の小中合同研修会を行い。各校の実態把握に努めた。また、小学生との交流を図るため、体育祭で綱引きを実施した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 教員の連携を図るとともに、小学生が中学校の部活動を体験する機会を画策する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価は校長の諮問委員会。区からの教育調査の内容が変わるので、経年変化が取れない。経年で取れるものが欲しい。 教育委員会へ校長会から話して、前年との比較を見る内容など項目を要望すべきである。 この学校評価は項目に答える形になっている。そうすると、点での評価しか出ない。重点目標はいろいろな内容項目と絡まっているはず。全体像の評価をするためには、評価様式の改善が必要。 小中一貫が消極的である。そこで教員の連携を図っても意味ない。連携・親睦の時期ではなく、共通プログラムの策定など積極的な活動が必要である。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、支援本部、PTAとの連携をより深めるために、連絡会議を設定し、生徒支援を充実させる。 研究指定校として、9年間の学びの連続性を重視し、共通テーマで小中連携を推進する。 学校評価をより実態に合わせるために、学校独自の教育調査を作成し、経年変化を分析し学校改善に生かす。 					